

第1回 官庁営繕事業の監督・検査におけるデジタル技術に関する検討会 議事概要

日 時：令和5年2月10日（金）13:00～14:30

場 所：中央合同庁舎第2号館 13階

国土交通省大臣官房官庁営繕部会議室・入札室

（WEB会議システム併用）

開会

検討会設置

議事

1. 検討会の進め方について
2. 官庁営繕工事におけるデジタル技術を活用した監督・検査について
 - (1) 生産性向上技術のこれまでの取り組みと検討概要
 - (2) 配筋検査
 - (3) ガス圧接外観検査
3. 今後の検討の流れについて

閉会

委員出席者：蟹澤宏剛委員（座長）、浦江真人委員、中原健太郎委員、国本勇委員、
中村裕介委員、植木暁司委員、山田剛委員、

行政側出席者：国土交通省 大臣官房官庁営繕部整備課建築技術調整室（事務局）

<議事概要>

●委員、△事務局

開会、検討会設置

- ・事務局から資料により説明。蟹澤委員を座長に選出。

議事 1. 検討会の進め方について

- ・事務局から資料により説明。
- （一同異論無し）

議事 2. (1) 生産性向上技術のこれまでの取り組みと検討概要

- ・事務局から資料により説明。
- （一同質問無し）

議事 2. (2) 配筋検査

- 継手長さ、かぶり厚の自動計測が可能か。
△タブレット上で2点をタッチすることで計測可能。
- 継手長さ、かぶり厚の自動計測は試行時のチェックポイントになる。
- 使える範囲を調べ、人手でやるよりも助けになるのであればよい。
- 鉄筋の材料強度は自動で確認できないようだが、近年現場では鉄筋径と強度で材料を色分けするようになっているので、撮影画像から自動判定できるようになっていくものと思われる。
強度間違いは致命的な問題になるので、重要なポイント。
- 技術開発が進んでいけば解決する問題もある。そういった技術が発展していくためには、検査側あるいは現場側からの多様な意見を集め、モデル事業的に進めることも重要。

議事 2. (3) ガス圧接外観検査

- 標準仕様書では外観検査は技能資格者が行うことを規定している為、従来手法による計測は技能資格者が行う必要があるが、本システムを実際に運用した場合、画像の撮影も技能資格者によることになるか検討が必要。
- 検査システムのインパクトは大きく、期待も大きい。現状では100%の精度はなく、まだ開発に時間がかかると思われるが、使っていないと進化しない。本システム利用には費用が掛かると考えると、加点評価の対象にするなどのインセンティブがあるとよい。
- 今、人間が紙でチェックしていることが、将来的に写真から自動判定でき、エビデンスも残るといったような検査方法に発展して変わっていくことが、一つの観点になる。

議事 3. 今後の検討の流れについて

- ・事務局から資料により説明。
- 生産性向上を考えたときに、どこが無駄か、もう少し効率的に検査業務が進められるよう考える必要がある。
- DX、生産性向上の検討を通し、将来的な課題の検討につながるように、皆様にもご協力お願いしたい。

閉会

以上